

《巻頭言》

第19回日本禁煙学会学術集会を終えて ～科学でつなぐ禁煙と健康社会～

第19回日本禁煙学会学術総会 大会長、日本禁煙学会 理事
自治医科大学附属さいたま医療センター 副センター長 循環器内科 教授
藤田英雄

2025年11月29日および30日の両日、埼玉県さいたま市の大宮ソニックシティにおいて、第19回日本禁煙学会学術総会を開催いたしました(図1)。本学術総会は、「科学でつなぐ禁煙と健康社会」の実現という重厚なテーマを掲げ、多くの関係者の皆様のご支援を賜りながら進めてまいりました。

埼玉の地で掲げた「科学と健康社会」の融合

特筆すべきは、首都圏での開催でありながら、学会史上初めて「埼玉県」で行われた記念すべき大会となった点です。埼玉県医師会会長の金井忠男先生を名誉大会長にお迎えし、医師会・看護協会・歯科医師会・薬剤師会という、いわゆる「四師会」の枠組みを超えた共催を実現することができました。開会式では、日本医師会の松本吉郎会長より心温まるビデオメッセージを頂戴しました(図2)。これにより、我々の禁煙推進活動が日本の公衆衛生の根幹を支えるものであるという自負を、参加者全員が改めて再認識する貴重な場となりました。

理事長・大会長講演と国際的な知見の共有

学術プログラムの幕開けとして、山本蒔子理事長による講演が行われました。そこでは、日本禁煙学会がこれまで歩んできた軌跡と今後の活動方針が示され、我々が守り抜くべき理念が改めて共有されました。続く大会長講演におきましては、私自身の専門である循環器内科医の視点から、科学的根拠に基づいた医療としての禁煙がいかに重要であるかを論じさせていただきました。

また、国際的な動向についても活発な報告がなされました。川合厚子先生による特別講演では、2025年に開催された世界タバコ対策会議(WCTC)



図1 学術総会ホームページ
<https://www.jstc19.com>



図2 開会式

の最新報告が行われ、世界のタバコ対策の最前線が共有されました。さらに、Judith Mackay先生による海外招請ビデオ講演を通じて、FCTC(タバコの規制に関する世界保健機関枠組条約)発効から20年の歩みを俯瞰し、国際標準の変化と、わが国が目指すべき禁煙のゴールおよび課題を学ぶ極めて貴重な機会となりました。

学術的深化と禁煙治療の再始動

本総会における成果の一つは、会員数4万人に迫る日本循環器学会の禁煙推進委員会との初の共同セッションを開催したことです。専門領域の垣根を越えた議論を通じ、循環器疾患の予防において禁煙がいかに不可欠な「治療」であるかが再確認されました。

ランチョンセミナーにおいては、川合厚子先生、加藤正隆先生、土井たかし先生、山田正枝先生といった諸先生方のご協賛をいただきました。さらに、チャンピックスの出荷再開という吉報を受け、急遽ファイザー本社メディカルアフェアーズ部門にもご協賛いただけることとなりました。山口泰弘先生(自治医大さいたま医療センター呼吸器内科教授)による「呼吸器疾患と喫煙」のご講演では、会場はほぼ満席となり、禁煙治療の再始動に向けた活気に包まれました。

喫緊の課題への対抗：新型タバコと草の根活動

シンポジウムでは、多角的な視点から以下の4つ

のテーマが深く掘り下げられました。

- 受動喫煙対策の推進
- 新型タバコ問題への警鐘
- タバコ問題首都圏協議会との連携
- GRP/YGC(グラスルーツパワー・イエローグリーンキャンペーン)拡大セッション

特にGRP/YGCセッションでは、医療従事者のみならず、自治体、市民団体、教育現場など多様な主体が連携し、「煙のない環境」を構築するための力強い草の根の取り組みが報告されました(図3)。一方で、2日目のシンポジウムで取り上げられた新型タバコの問題は喫緊の課題です。IQOSなどの加熱式タバコの巧妙な拡販戦略や、若年層に広がるシーシャ(水タバコ)の現状が浮き彫りとなりました。健康被害を過小評価させる業界の戦略に対し、我々は強固な科学的知見と倫理観を持って対抗する必要性を再確認いたしました。

次世代への継承と専門部会の活性化

「繁田正子賞セッション」では、40歳以下の若手研究者9名による発表が行われました。疫学調査や新型タバコ対策など、その発表レベルの高さは目を見張るものがあり、「タバコのない社会を創る」という繁田先生の情熱が確実に次世代へ引き継がれていることを実感いたしました。

- 最優秀賞：木葉郁美氏(熊本機能病院)
- 優秀賞：赤羽朋博氏(東京女子医科大学)、津野慧戸氏(筑波大学)



図3 シンポジウム GCP-YGC



図4 スイーツセミナー

また、一般演題セッションでの35演題の口演に加え、歯科・心理学・食と栄養の3つの専門部会セッション、そしてナース部会主宰の「スイーツセミナー」も盛況を博しました。特にスイーツセミナーには63名が参加し、和やかな雰囲気の中で禁煙支援スキルの向上に向けた熱心な意見交換が行われました(図4)。

結びに代えて

本総会には579名もの方々にご参加いただき、2日間を通じてすべての会場で熱気が途絶えることは

ありませんでした。開催直前に完成した**『禁煙学 第5版』** (南山堂) が、本会場にて全国に先駆けて先行販売されたことも、本総会にとって幸運な巡り合わせとなりました。

大宮での直接対面による議論を通じて醸成された新たな連帯は、必ずや日々の臨床現場や社会活動に反映されるものと確信しております。最後に、共催団体の皆様、運営スタッフ、プログラム委員会の皆様、そして熱心にご参加いただいたすべての会員の皆様に、心より厚く御礼申し上げます。



懇親会